

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670100027		
法人名	社会福祉法人 光風会		
事業所名	グループホームやまもも		
所在地	徳島県徳島市下町本丁59-26		
自己評価作成日	平成24年8月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりが安心して生活できるよう、全職員で個々の理解に努め、持てる能力に視点を置いた関わりを持ち、本人の意欲を出して頂き、生活の活性化が図れる支援に努めている。家族には、毎月、近況報告や季節ごとに“やまももだより”を発送し、日常生活・心身の状態について報告している。また、状態の変化等があった場合には、そのつど家族に電話連絡を行っている。家族会や家族同伴の遠足、面会時に家族との信頼関係の構築に努めている。毎月、徳島市上八万支所に生花ボランティアに訪問させて頂くとともに、運営推進会議等において、地域の情報を頂き、積極的に参加するなど、地域との交流に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は静かな高台に位置しており、近隣にはコンビニや畑、住宅地等が点在している。利用者一人ひとりの能力に応じた支援を行っており、生きる意欲を引きだしつつ、毎日を楽しく過ごしてもらうことができるよう支援している。また、同一法人の運営する複数の他サービス事業所を併設しており、連携体制を構築している。医療連携体制も整備し、医療や介護、生活面で利用者の安心に繋がっている。また、様々な行事を計画し、ドライブや遠足に出かけたり、地域の祭りや小学校の行事等へ参加したりして、地域と交流を図りつつ生活することのできる環境を整備している。職員は、法人内・外の研修会へ積極的に参加し、サービスの質の向上に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	光風会・グループホームの理念の中に“地域とのつながりを大切にします。”とあり、朝の申し送り後に参加全職員で復唱し、意識づけを行っている。また、利用者が近隣の友人等と会う機会をつくっている。	事業所では、理念の“地域とのつながりを大切にします”を申し送り時に唱和している。全職員で理念を共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1回、近隣の支所に生花のボランティアに行ったり、近隣の小学校で開催される夏祭りに参加させて頂いている。散歩や近くのスーパーへ買物に出かけ、地域の方に挨拶や話をしている。	法人として地域の自治会に加入し、様々な情報を得ている。また、積極的に地域の行事へ参加している。事業所の行う社会貢献活動の一環として、定期的に地域へ出向いて、事業所で育てた花を生けに行っており、双方向的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	適宜在宅で介護をしている地域住民の相談にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や活動状況を報告し、それに対するご意見や質問をお受けし、今後のサービス向上に活かせるように努めている。地域の行事等についての情報を提供している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者の状況やサービスの実状について報告し、意見交換を行っている。出された意見は、サービスの質の向上に活かしている。また、外部評価の取り組みや結果について説明を行い理解を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者のご出席を頂き、ご意見をお聴きしたり、ご指導いただいている。適宜電話にて相談等を行い、信頼関係の構築に努めている。	定期的に、市担当者へ事業所の取り組みなどについて報告を行っている。また、機会あるごとに窓口を訪問して相談したり、指導を得たりして協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については行わないように努めている。また、勉強会を実施しケアに取り組んでいる。	月1回、身体拘束委員会を開催し、身体拘束の内容と弊害について正しく理解し、拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、高齢者虐待防止に関する勉強会を実施し、全員で防止の取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、成年後見制度等についての勉強会を実施し、職員個々の理解力を確認し、必要な支援を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、契約書や重要事項説明書等について十分説明を行っている。また、料金改定時には、随時説明を行っている。家族からの質問に関しても丁寧にお応えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会や面会時に家族の意見をお伺いしている。お伺いしたご意見を運営に反映するように努めている。	家族会や運営推進会議、面会時等の機会に問いかけ、何でも言ってもらえることのできる雰囲気づくりに留意している。出された意見については、職員間で検討し運営面に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時やミーティング等に於いて、職員の意見や提案を聞いている。代表者には、グループホーム会議1回/月に於いて、報告している。	管理者は、毎朝の申し送りやミーティング時に、職員の意見や提案を聞くよう努めている。月1回、法人のグループホーム会議を開催し、職員から出された意見等を報告し、代表者とともに検討して運営面へ反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	グループホーム会議をグループホーム内で実施し、代表者も参加しており、利用者の状態把握や職員の意見等を聴いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を月に1回を実施している。外部研修にも積極的に参加し、その他の職員に伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本グループホーム協会に加入し、主催する研修会に参加し、他のグループホームや事業者との交流を行う等の取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入して頂く段階で、本人・家族のご要望をお聴きし、安心して生活して頂くけるとともに、関係作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階から、家族のご要望等お聴きしている。グループホームでのケアの方針や行事等についても説明を行い、家族の理解が得られるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、相談内容や情報等により、必要な対応を見極め、居宅ケアマネと連携し、他施設や他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の得意分野を活かして頂けるように役割を持って頂き、継続できるように職員も必要な支援を行う等、助け合って生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告や季節ごとにやまももだよりを送付したり、状態の変化時には、適宜連絡をしている。また、年間行事に、家族同伴遠足や、誕生会・家族会に家族を招き、信頼関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣施設の友人等との行き来があり、関係が途切れないように努めている。また、ご希望を伺い、ミニドライブとして、馴染みの場所に行く機会を設け、知人と過ごせる時間を持てるように努めている。	職員は、利用者の希望する外出先を聞きとり、実状にそって外出を支援している。近隣の事業所を利用している友人との交流を支援しており、関係が途切れることのないよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が中に入りながら、会話を補佐したり、共通の楽しみである歌を皆で歌う時間を設け、利用者同士の関わりの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合には、情報の提供を行い、機会ごとに面会など交流に努めている。退居後においても家族よりご相談を受けた時など、必要に応じて支援に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者の想いを大切にし、出来る限り意向に添えるように努めている。また、必要に応じてケースカンファレンスを実施、適切な支援に努めている。	日ごろの利用者との関わりのなかから、一人ひとりの思いや暮らし方の希望を把握するよう努めている。意志の把握が困難な場合には、表情や些細なしぐさなどから気持ちを汲みとるよう心がけ、希望に応じた支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のこれまでの生活状況や家庭状況等を把握し、個々にあった生活を送って頂くように努めている。家族等との信頼関係の構築に努めている。センター方式のシートを一部使用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者が出来る事に注目し、その力が継続できるように努めている。一人ひとりの生活リズムを理解し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からの要望をお聴きし、また、必要な関係者より助言を頂き、ケアに反映できるように介護計画を作成している。適宜、モニタリング・サービス担当者会議を実施し、介護計画に反映している。	本人や家族、関係者間で現在の課題とケアのあり方について話しあい、本人のより良い暮らしを実現するための介護計画書を作成している。随時、モニタリングを行って、現状に応じた見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状況等は個々の介護記録に記載し、また、職員連絡帳に記載したり、ミーティングにて職員間で情報を共有し、介護計画の内容等に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院と隣接しており、利用者の体調等の変化時には、医師・看護師に状態を報告し、指示を仰いだり受診している。近隣施設に入所している家族への面会支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方からの情報を頂き、地域行事に参加し、小学校や保育所との交流にも努めている。また、実習生の受け入れも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の訪問診療を1週間に1回以上受けている。専門医の受診が必要な時は、家族と連絡し、受診支援を行っている。	本人や家族の希望を把握し、かかりつけ医の受診を支援している。週1回以上、協力医療機関の医師による往診がある。家族の協力を得たうえで、専門医の受診も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護さくらとの間の医療連携を締結している。週1回の訪問時に利用者の状態等において気付いたことを報告し助言等を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療が必要な時は、家族に確認の上、必要な情報提供に努めている。その他、必要な支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、関係機関との連携を密にし、段階ごとに家族に説明を行っている。利用者や家族が安心してサービスを利用できるように受診時の報告と共に記録を残し、全職員で情報を共有できるように努めている。	重度化や終末期に向けた指針を作成している。重度化した場合や終末期のあり方について、早期段階から本人や家族と話しあっている。身体状況に応じて段階的に説明を行い、全職員で情報を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は急変時や事故発生時の対応について研修を受けている。夜勤時の緊急時の対応についてのマニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施や災害対策会議に参加し、避難誘導時の留意点や対応方法を話し合っている。また、災害時備蓄品も用意し、月に1回の点検を実施している。	定期的に、火災や地震、水害等に関する対策会議を行い、避難誘導時の対応方法や留意点について話しあっている。また、市の消防署や地域の消防団の協力を得て、事業所のマニュアルに基づく訓練を実施している。緊急通報等の訓練も実施している。非常用の食料やその他の備品を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の誇りやプライドを傷つけないように配慮を行い、支援に努めている。言葉掛けに於いても、利用者が理解しやすいように心掛けている。	利用者の人格を尊重し、一人ひとりの思いを大切に支援している。プライドを傷つけることのないよう特に声かけに留意し、さりげない支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、本人の思いや希望が表現できる関係作りに努め、ご自身で決定できる機会をつくるように努めている。好み等についても、随時確認を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事などを決める時も出来るだけ利用者の要望を取り入れるように努めている。また、1日の過ごし方も適宜ご希望を反映できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替時やお出かけ時には、本人が決定している。職員は、見守りや支援を行っている。自己決定がしにくい利用者には、職員が本人の気持ちに添った支援に心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や畑で収穫したものを利用者と一緒に調理を行って食べて頂いている。また手作り弁当を持参し、遠足に出かけているなど、食事が楽しいものとなるように支援している。	職員は、利用者一人ひとりの好みや能力に配慮しつつ、ともに食事の準備や調理、片づけなどを行っている。週3回、同一法人の管理栄養士からカロリーや食材のバランスなどに関するアドバイスを得ている。手作りのおやつを外で食べるなど、食事が楽しいものとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の体調に合わせた食事形態での提供に努めている。食事摂取量や水分摂取量が少ない場合には、嗜好品やあらかじめ用意している補食にて対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の個々の状態に合わせて、食後に洗面所にて口腔ケアを実施している。毎週1回、義歯を洗浄液につけ清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のサインやパターンを理解し、トイレ誘導しトイレで排泄していただくよう支援している。自尊心や羞恥心に配慮しながら個々に合わせた介助に努めている。	利用者一人ひとりの排泄のサインやパターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援している。自尊心や羞恥心に配慮しつつ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を記録し、把握している。出来るだけ自然排便を促すよう、個々の利用者に合わせて、水分補給や乳酸菌飲料、食物繊維が多く摂取できる食品の提供に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者個々の希望や、その日の状態に応じて入浴をして頂いている。個々にあった、入浴介助や支援を行っている。	利用者の希望や体調に応じ、少なくとも週2回は入浴できるようにしている。入浴が好きな利用者には毎日の入浴を支援するなど、一人ひとりの意向に応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人ひとりの生活やその日の体調や状況に応じて休息が取れるよう支援している。夜間寝付けない方には、傍で寄り添い、温かな飲み物を飲んで頂く等の対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を元に薬の目的や副作用について確認している。薬の処方や用量の変化時、利用者の状態変化がみられた時は、詳細を記録し、協力医療機関との連携を密にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り、盛り付け、お膳拭き、草抜き、洗濯干し、洗濯畳み、歌を唄う、ピアノを弾く、買物、ボランティア活動等を職員と一緒に実施し、能力を発揮し、生甲斐や気分転換を図って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買物に出かけたり、希望される場所にミニドライブに同行している。必要時は、家族にご相談し、一緒に参加して頂いている。	利用者の希望に応じ、ドライブや買い物等の外出を支援している。家族とともに外出する機会も設けている。敷地内の喫茶店を利用するなど、積極的に戸外へ出るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より、お金を預かっている。本人が買い物や外出時、必要な物を購入し、支払って頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者のご希望に合わせて電話を掛けて頂いている。電話では聞き取りにくい等の理由で、職員に依頼された場合は、職員が対応を行う。年賀状を家族に書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除・整理整頓・換気・温度調節に注意を払っている。温度は個々のご希望に合わせて調整を行っている。また、季節感を味わって頂けるように季節の花や壁面環境に努めている。行事日程や日にちが分かるように掲示している。	廊下の天井は高く、明るい日差しが差し込んでくる。季節感に配慮して、玄関や廊下に花を飾っている。居心地良く過ごすことのできる環境を整備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは、様々な椅子を用意し、好みや体調により選んで頂いている。また、気の合った利用者が一緒に過ごせる時間が持てるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染の品、写真や日用品を好みで部屋に置かれ、心地よく過ごして頂けるように工夫している。	入居時の段階で家族と相談し、本人の使い慣れた家具や好みのものを持ち込んでもらっている。ピアノや鏡台、仏壇等を持ち込む方もおり、本人の意向を確認しつつ、その人らしい居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に応じて、負担無く生活をして頂けるように、環境整備を行っている。自室やトイレを分かるように大きく表示している。適宜、職員が利用者が不安にならないように、必要な支援が行えるように努めている。		